

博士学位論文 審査結果の要旨

Abstract of review result

芝浦工業大学大学院 理工学研究科 博士（後期）課程

Doctoral thesis defense committee

博士学位論文審査委員会

Main examiner

主査 志手 一哉

Examiner

審査委員 蟹澤 宏剛

Examiner

審査委員 古賀 純子

Examiner

審査委員 濱崎 仁

Examiner

審査委員 安藤 正雄

Examiner

審査委員

氏名 Applicant's Name	Tan Zi Yi
論文題目 Thesis title	A Comparison of Construction Safety and Health Management between Japan and Malaysia: Assessment on the Safety Training Methods Focus on Workforce (日本とマレーシアの建設安全衛生管理の比較：労働者を中心とした安全教育方法の評価)
〔論文審査の要旨〕 本論文では、先進国と発展途上国の建設工事の安全衛生管理に焦点を当て、その共通点と相違点を比較分析することで、発展途上国における建設事故防止プログラムの要点を明らかにすることを目的としたものである。比較対象とした国は、発展途上国がマレーシア、先進国が日本である。マレーシアの建設技術は発展しつつあるものの、安全意識が低い傾向にあり、非正規外国人労働者が多いという課題を抱えている。一方で日本は、建設産業が成熟しており、労働災害発生数は低位で安定している。本研究は、2つのパートに分かれている。1つ目のパートは、両国における過去数十年間の建設安全衛生管理を取り巻く環境の比較である。統計情報で両国の建設事故の状況を詳細に比較した後、安全衛生関連法規制の歴史的経緯、安全衛生管理における役割と責任、安全衛生マネジメントシステムの具体的な記述について比較分析をし、マレーシアはトップダウン的な安全衛生管理を志向した法令やガイドラインとなっており、日本は建設現場の主体性を促すボトムアップを組み入れた法令やガイドラインになっていることを見出した。その仮説を検証するために、両国の建設現場（日本×3、マレーシア×3、マレーシアの日系建設会社×4）で、安全衛生管理、組織構成、事故防止対策、外国人労働者への対応などの実態調査をし、両国の建設現場における意識の違いを明らかにした。外国人労働者に対する建設労働安全上の施策について、マレーシアの建設現場の技術者へのアンケート、日本の建設労働関連の協会へのヒアリングを通じ、抱えている課題が同じでも考えている対策が異なることを考察した。2つ目のパートは、非熟練作業や外国人労働者を含む建設労働者を対象とした安全教育方法を検証している。本研究では、非言語の動画教材に着目し、両国で実施した非熟練者、外国人労働者の受講成績の統計分析を通じ、就業する国の違いで異なる意識があることを明らかにした。以上の結果から、発展途上国はその国の労働安全文化に合うようにカスタマイズした安全教育プログラムの政策立案が必要であると結論付けている。 最終審査・公聴会は2024年1月27日に実施され、当該論文の内容および申請者の専門分野の知識について審査した。審査では、2023年10月25日に行われた予備審査での指摘事項について十分な改善がなされていること、結論を導き出すための論理展開の秀逸さ、質疑応答への的確な回答が評価され、審査員全員一致で合格と判定をした。	